

# 緑の子

令和4年3月発行  
発行・編集  
鎌ヶ谷市青少年センター  
☎273-0101  
鎌ヶ谷市富岡2-6-1  
(生涯学習推進センター内)  
☎047-445-4393

令和四年一月二十四日(月)～三十一日(月)、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催による、第三十八回「全国青少年相談研究会」が、コロナ禍の中、ウェブ配信で開催されました。この内「SNS問題」と「児童虐待」について、それぞれ主な内容をまとめました。

## 「SNS問題」について学ぶ

青少年センター 石津 英史

「青少年のSNS利用実態から考えるGIGAスクール時代の課題」をテーマにネット教育アナリスト尾花紀子氏がネットを利用する子どもたちの心理・行動・トラブル等や、インターネットやデジタル機器に関する現状と課題を説きながら学校や家庭でどのようにデジタル機器一人一台の時代と向き合っていけばよいのかについて話されました。

子どもたちのネット利用に大人が向き合う中で大人の意識改革が必要であり、その視点として7つのキーワードを紹介します。

- 1、「Z世代の感覚や使い方を正しく理解する」  
Z世代とは、1990年代後半から2010年代前半に生まれ、IT化、デジタル化が進んだ時代に育った世代で、その世代の感覚や使い方を正しく理解する。
- 2、「コロナ禍で何がどう変わったかを振り返る」  
家に居る時間が増えたことによりネットの利用時間が増え、依存傾向が生じてしまった子どもたちがいる。また、保護者の小言や親子げんかが増えた反面、逆に親子が仲良くなった家庭もある。SNS、フリマ、ゲーム等で友達と遊びに行けない、会えない代わりにボイスチャット機能を使う等してコミュニケーションをとる時間が増えたことで子どもがどんなことをしているかわからなくなってしまうっている。
- 3、「健康を保つために知っておきたいこと」  
長時間、同じ姿勢で画面を見続けることによる「スマホ老眼」や頭を首が同じ状態で長時間支えることによる「ストレートネック」になり頭痛、肩こりが生じる。長時間の利用は、体内時計に影響を及ぼし良質の睡眠を得ることができなくなり成長や発達に影響を及ぼすことになる。

- 4、「家庭で気を付けたこと、意識したいこと」  
年齢や能力・使い方に合わせた対応をするため子どもたちのネット等の使い方に興味を持ち、使い方等知らないことは子どもに教わり、そして理解し、自分自身のネットの使い方も見直す。また、安全に利用するために親が使い方を勝手に決めず子どもなんでも話し合う。

- 5、「18歳で成人に！高校生が身につけたいこと」  
成人年齢の引き下げで高校二年生がやってみてみたいことは、「自己管理」や「契約に関するトラブル」など、不安に思っている。このように、成人としての責任を負うこととなる中、「何を学ばせるか」が重要なポイントとなる。

- 6、「SNS利用は、使い方次第で十にも一にもなる」  
「相手が見えない」という基本的なことを改めてじっくり考え、小学生以下は、多くの若者・大人が使っている有名なSNSサービスの登録等、親子共に対象年齢に満たないことを認識する。中学生は、「発信者責任」「情報の偏り」「危機管理」等を正しく認識させる。  
高校生では、18歳までに学びたいこと、将来を意識して社会に出る前にプラスになること、マイナスにならないこと等の学びたいことの総まとめをする。

- 7、「セキュリティや危機管理は、今後ますます大切になる」  
最低限、次のことは守って自分を守る。  
①セキュリティソフトや、迷惑メールのブロック設定等、技術ができるだけうまく活用する。  
②アカウント情報(ID・パスワード等)は貸し借りしない、教えない。  
③個人につながる情報の発信・登録には要注意。  
④パスワードの使いまわしや安易な設定をしない。  
⑤「おいしい話に飛びつかない」、「架空請求に慌てない」、常に落ち着いて判断する。  
子どもたちのネット利用は、成長の妨げや習慣にならないよう注意し、また、発達段階に応じたフィルタリング設定と使い方のルールを子どもと話し合っ決めて決めることが必要であり、ルールとマナーを守り、時には使う手助けと相談相手を務めて、子ども自身が自らネット利用をコントロールできるよう親子の会話を通して見守ることが必要であると感じました。